

「豊かさ」とは何だろうか？

少し前まで「豊かさ」と言えばお金や食べものがたくさんあることが豊かさでした。でも今その考え方は大きく変わってきているように感じます。例えば、「自然が豊か」と言った場合、それは経済的な価値観だけではなく、そこに生物多様性や持続性、あるいは美しいという感覚を含み、自然からの恵みを活かしていることも「豊かさ」としてとらえられはじめたような気がします。

確かに「自然」のとらえ方もなかなか難しいです。ある人は人の手が入らない奥山こそが自然といい、またある人は里山や田んぼも自然と表現します。生きものはすべて自然なのかと言うと、これもまた認識にずれがあります。そして「自然」は人に豊かな恵みを与えてくれると同時に生きものの命も奪うのですから、人にとっていつも味方ではありません。

我々は「暮らしの中の自然モノサシ」を見つけ、それを活かすことで地域が持続的であり、豊かで幸せになってほしいとの思いで高知県の豊かさを「自然の視点」で探し始めました。2年間の活動の結果、ぼんやりとですがその一部が見え始めました。

もくじ

- ・「豊かさ」とは何だろうか？・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- ・2015年4月に始まった『暮らしの中の自然モノサシ市民調査』・・・・・・・・・・ 2
- ・ポイントは「自分のモノサシを見つける」です。・・・・・・・・・・ 3
- ・モノサシ候補 「山菜など野の恵み」「海岸などの場所」・・・・・・・・・・ 4
- ・モノサシ候補 「里の生きもの」「川の魚」・・・・・・・・・・ 5
- ・モノサシ候補 「地域の祭りや行事」「人の手で作られた石垣など」・・・・・・・・ 6
- ・モノサシ候補 「街路市など」「自然の中で遊べる場所がある」・・・・・・・・・・ 7
- ・エッセイ 「暮らしの中の豊かさ」 鈴木昌樹子・・・・・・・・・・ 8
- ・エッセイ 「豊かさの尺度」 玄番真紀子・・・・・・・・・・ 9
- ・あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

2015年4月に始まった『暮らしの中の自然モノサシ市民調査』

1年目は「季節を感じる自然の変化」についてお聞きしました。よくあるキーワードもあれば、はっとする気づきもたくさんありました。実に豊かに季節の変化や自然との関わりを教えてくれた方もいれば、季節の移り変わりを感ぜないという方も少なくない数がおられました。高知県民は高知の豊かな自然の恩恵を理解し、季節の変化を感じ楽しんでいたいと思込んでいたチームメンバーは驚きました。そこで今年はやはり正面から「豊かさ」「幸せ」「望むべき未来」をお聞きして、県民が暮らしの中で自然とどう向き合っているかを調べておかないと、高知県の暮らしと自然の関係性は見えないのではないかと考えたのです。

この問いかけに応じて実に多様な方や地域の皆様とお会いできたことは光栄であり、有意義な時間でした。その中でいくつか見えてきたことを並べてみます。

- ・高知の自然は一見豊かに見えるが、少し昔に比べたらその豊かさを失っている。あるいは持続的でなくなりつつある。利活用度が極端に減っている。などの問題点が見えてきた。
- ・ですが、まだまだ特に山村や漁村、古い街では暮らしの中に自然を活かす知恵が残り、しっかりと活用されその伝統が継承されていることがうかがえる。
- ・グループワークや聞き取りを行うと、高齢者にとっての伝統的な知恵の常識は若年層には非常識であり、またある地域では継承されていても他の地域ではもはや消滅していることも多い。
- ・豊かさの感覚の違いが、年代や地域によってかなりの差があることもわかった。

そしてモノサシ化の難航

“人々が日々の暮らしの中で無意識に感じている高知の「自然の豊かさ」”をカテゴリー分けしてその中から指標を選び、モノサシとする作業も難航しています。まるで地面から湧き出るように、次から次へと豊かさのキーワードが生まれてきます。そしてそのキーワードをどのように整理したら良いか、あるいは市民調査としての手法として活かせるかについても実に多様なアイデアがわいてきます。

そこで一度区切りをつけ整理をしてみることにしました。そしてこの冊子を手にとったみなさんのお声をいただける淡い期待も含めて、暫定的にモノサシ候補の整理をしてみました。

これまでの調査手法（キーワードなどの収集方法）

地域でのグループワークやインタビュー、小さな集団での聞き取りやアンケート、イベント時に行うアンケートなどで収集しました。1年目は「季節」について、2年目は「豊かさ」や「しあわせ」「地域の宝物」についてお聞きしました。

